



An impress Group Company

報道各位

2024年2月19日
株式会社インプレス

激動のインターネットの歴史を1994年分から読める！

「インターネット白書 ARCHIVES」に2023年版を追加

IAJapan/JPNIC/JPRS/インプレス・サステナブルラボの共同社会貢献活動

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:高橋隆志)は、一般財団法人インターネット協会(IAJapan)、一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)、株式会社日本レジストリサービス(JPRS)とインプレス・サステナブルラボ(株式会社インプレスホールディングス内研究組織)が共同で運営している無料バックナンバーサービス「インターネット白書 ARCHIVES」(<https://IWParchives.jp/>)に、昨年版の『インターネット白書 2023(副題:分断する世界とインターネットガバナンス)』の記事を追加掲載いたしました。

「インターネット白書ARCHIVES」トップ画面

<https://IWParchives.jp/>



<<「インターネット白書 ARCHIVES」とは>>

「インターネット白書 ARCHIVES」(インターネット白書アーカイブス)は、インターネットの黎明期(1996年)からの歴史を年鑑として発行し続けている「インターネット白書」のバックナンバーをデジタル化し、無料で検索・閲覧できるようにした Web サービスです。発行後1年を経過した「インターネット白書」をアーカイブスに登録しています。昨年5月には、1994年から2006年までインプレスより発行していた月刊誌『インターネットマガジン』のバックナンバー検索サービスを統合し、より多くの記事が検索できるようになりました。

<<今回、追加された主な記事>>

この度、追加したインターネット白書 2023 年版は、主に 2021 年末から 2022 年にかけての状況を踏まえて構成しています。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響でライフスタイルが変化し、その後も成長を続けるデジタルサービスの話題、ロシアによるウクライナ侵攻など国際紛争を背景にしたサイバー攻撃やフェイクニュースの攻防、偽情報問題に対応するファクトチェック機関の開設、また翌年に京都で開催される IGF 2023 を前に国境を超えるグローバルなインターネットガバナンスの重要性について展望しています。

新しい話題として注目が集まった Web 3 においては、その技術要素の解説や、重要概念である DAO に関して制度改革面から考察し、ムーブメントの背景にある基本的な考え方を読むことができます。さらに、最新刊 2024 年版『インターネット白書 2024 (副題:AI 化する社会のデータガバナンス)』でも複数の専門家が解説している生成 AI(本号ではジェネレーティブ AI)については、この 2023 年版で初めて取り上げています。

「インターネット白書 ARCHIVES」では、時系列検索エンジン TIMEMAP を採用。キーワード検索をすると、27 号分のインターネット白書の記事および統合した月刊誌『インターネットマガジン』のバックナンバー記事などが年表形式で表示されます。1994 年以降のインターネットの歴史を無料で読めるこのアーカイブを、仕事や勉強にぜひご活用ください。

追加した「インターネット白書2023」



小売希望価格:
電子書籍版 2,800円 (税別)
印刷書籍版 3,200円 (税別)
B5判/本文260ページ/一部カラー (B)
前書き掲載
発行日: 2023年2月17日
ISBN: 978-4-296-63186-9

インターネット白書 2023 [Vol.27] 分断する世界と インターネットガバナンス

巻頭
10大キーワードで読む2023年のインターネット
巻頭言「マルチステークホルダーモデルが取り出す新しい社会に期待」
監修者一覧
第1部 テクノロジーとプラットフォーム
1-1 アプリケーションと開発
世界を提議するジェネレーティブAI
Web3の経緯と未来への課題
都市のデジタルツインと拡張現実技術
メタバースの発展とこれからの課題
1-2 クラウド
クラウドの生産動向とエッジコンピューティング

「インターネット白書2023」第1部より

1-1 アプリケーションと開発

Web3の技術と未来への課題

斉藤 賢爾 ●福田大学 大学院経営管理研究科

Web 1.0とWeb 2.0におけるデータ生産の取り組みを統合しようとするWeb 3.0の試み。しかし、ブロックチェーンによって実現するには課題が多い。技術の進展のために冷静な議論と研究が求められる。

■Webの歴史を振り返る

「Web3」なる用語が何を指しているかにはまだ混乱が見られる。しかし、公開台帳の記録維持作業への参加の報酬として暗号資産を組み込んだ「ブロックチェーン」という仕組みが関係することは、ほぼ共通の認識と言えるだろう。

金融資産が絡むとすれば、議論はポジショントークになりがちで議論が助長される。そこで本稿では、Web3の技術的要素を抽出することで概念の整理を試みつつ、技術に注目して解説し、将来に向けた課題を問題提起する。

Webと呼ばれる以上、まずはWebの歴史を振り返るところから始めたい（資料1-1-1）。

●いわゆるWeb 1.0

World Wide Web（または単にWeb）は、1989年にティム・バーナーズ＝リー（Tim Berners-Lee）氏によって発明された。この段階はレトロニム²により「Web 1.0」と呼ばれる。Webの当初の目的は、世界中の大学・研究機関の科学者同士の論文をはじめとする情報共有を自動化することだった。論文は基本的にすべての科学者が読めるのだから、参加する全員がデータの生産者であり、Webは最初から双方向だったと言える。

しかし、インターネットの商用化を経て参加

た一般ユーザーにとっては、サーバーを立てて管理することのハードルが高く、Webは多くの人々にとってもっぱら閲覧の対象となっていった。

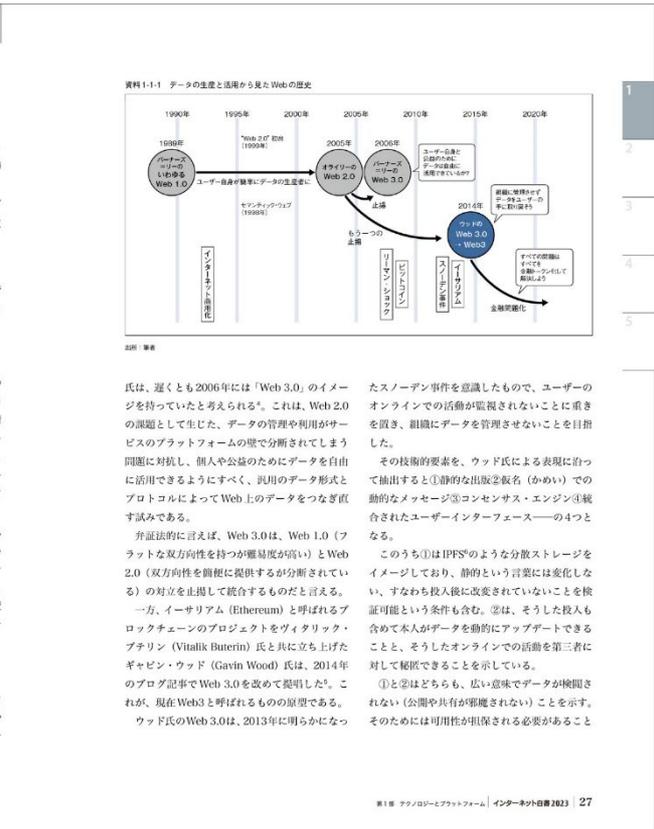
●Web 2.0

「Web 2.0」という言葉の意味を決定づけたのは、2005年のティム・オライリー（Tim O'Reilly）氏による記事である。Web 2.0は、特定の技術を指すというよりも、Webの新たな応用パターンの総称であり、ブログやソーシャルメディアといったWeb上のサービスを利用することでユーザー自身が簡単にデータの生産者となり、改めてWebが双方向化したことが特徴と言える。

「GAF」（Google、Apple、Facebook、Amazon.com）はWeb 2.0時代の象徴であり、それぞれが提供する検索エンジンやWebメール、動画プラットフォーム、センサーの集合体としての端末やOS、社交プラットフォーム、消費プラットフォームなどの利用を通して、ユーザーの生活が生み出すデータが価値の源泉となった。

●Web 3.0とWeb3

メタデータの付加によってデータの自動処理を向上させるセマンティック・ウェブなど、以前からWebの高度化を進めていたバーナーズ＝リー



検索エンジン TIMEMAP による表示

TIMEMAP 電子書籍

単語による比較 | メディアによる比較 | AA | 三

インターネット白書	インターネットマガジン	Impress Watch
2024-01-01		
2022-01-01	付録 インターネットの主な出来事 2019...	電子書籍人気ランキング (8月18日～8月2...
2020-01-01	付録 インターネットの主な出来事 2017.1...	電子書籍人気ランキング (7月29日～8月4...
2018-01-01	電子書籍 / 電子雑誌の動向	電子書籍人気ランキング (7月9日～7月15...
2016-01-01	付録1 インターネットの主な出来事 201...	税込1万978円の電子書籍リーダー 「Kobo...
2014-01-01	グローバルサーベイからみる日本のデジタル...	電子書籍人気ランキング (6月14日～6月2...
2012-01-01	電子書籍	電子書籍人気ランキング (6月1日～6月7日...
2010-01-01	国立国会図書館の「電子書籍配信構想」	電子書籍ストアのコミック検索で知らなかつ...
2008-01-01	電子書籍と電子コミックの市場動向	電子書籍人気ランキング (5月13日～5月1...
2006-01-01	電子書籍ビジネスの最新動向	メデイアド、設定切り替えなしでタテコ...
2004-01-01	電子書籍	小説 / ミステリー の売れ筋電子書籍20冊
2002-01-01	電子書籍	SF・ファンタジー ラノバの売れ筋電子書籍...
2000-01-01	電子書籍 (3) 電子書籍	パピレス、作成した電子書籍の公開、編集...
1998-01-01	INTERNET Watch!に見る1996年のネットワ...	学研、被災地の子供向けにわらべうた・あや...
1996-01-01		Android向け電子書籍配信サービスを電通と...

検索結果の下部には、2016年から2024年までの年次別検索履歴が示されています。

<< 編者紹介 >>

一般財団法人インターネット協会 (IAJapan)

インターネットの発展を推進することにより、高度情報化社会の形成を図り、わが国の経済社会の発展と国民生活の向上に資することを目的とし、2001年7月設立。普及促進・技術指導活動として、各種委員会活動 (IPv6 デプロイメント、迷惑メール対策、IoT/AI 時代におけるオープンイノベーション推進協議会) を行っている。安全安心啓発活動として、インターネットルール＆マナー検定の実施、インターネット利用アドバ

イザールの育成、SNS 利用マニュアル・スマートフォン基本設定マニュアル・フィルタリング設定マニュアルの作成、東京都のネット・スマホのトラブル相談業務の運営等を行っている。

<https://www.iajapan.org/>

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)

インターネットの運営に不可欠な IP アドレス等の番号資源について、日本国内における登録管理業務を行っている。あわせて年に一度の Internet Week をはじめとするインターネットに関する教育・普及啓発活動や各種調査研究活動、インターネットの国際的な広がりに対応するための国際的な調整業務を行っている。JPNIC は、任意団体としてインターネットの急速な普及を底辺から支える活動を4年間継続して行ったのち、1997 年、科学技術庁(現文部科学省)、文部省(現文部科学省)、通商産業省(現経済産業省)、郵政省(現総務省)の共管による社団法人となり、2013 年 4 月からは一般社団法人として活動している。

<https://www.nic.ad.jp/>

株式会社日本レジストリサービス (JPRS)

「インターネットの基盤を支え、豊かな未来を築く」という理念のもと 2000 年 12 月に設立。ドメイン名の登録管理・取り次ぎとドメインネームシステム (DNS) の運用を中心とするサービスを行い、インターネットを支える各種技術の研究・開発にも取り組んでいる。また、国内外のドメイン名の最新動向や DNS の技術情報の発信を行っている。日本に割り当てられた国別トップレベルドメイン「.jp」の登録管理組織であり、JP DNS の運用を行っている。「.jp」の登録管理組織として、国際的なインターネット関連組織と連携し、インターネット基盤資源のグローバルな調整を行う ICANN の活動支援、アジア太平洋地域のレジストリの連合組織である APTLD への参画、インターネット関連技術の国際的な標準化を進める IETF の会合での各種技術提案など、さまざまな活動を行っている。

<https://jprs.co.jp/>

<<インターネット白書について>>

日本のインターネットの動向を専門家の寄稿と統計資料で解説するインターネット年鑑。1996 年からほぼ毎年発刊し、発売中の最新刊 2024 年版で 28 号目。企画・構成は一般財団法人インターネット協会 (IAJapan)、一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)、株式会社日本レジストリサービス (JPRS) およびインプレス・サステナブルラボ (株式会社インプレスホールディングス内研究組織) によるインターネット白書編集委員会が担当。バックナンバーはウェブサービス「インターネット白書 ARCHIVES」で公開している。<http://iwarchives.jp/>

【インプレス・サステナブルラボ】

インプレスグループのサステナビリティを推進する研究組織。グループの社会的価値創造、関係資産維持を目的とし、書籍『SDGs 白書』や『インターネット白書』のほか、DX (デジタル・トランスフォーメーション) や SX (サステナビリティ・トランスフォーメーション) 分野の取材・発信を通して白書の次世代メディア化に取り組んでいます。

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 7,500 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」、「SmartGrid ニュースレター」、「Web 担当者 Forum」等の企業向け IT 関連メディアブランドを総合的に展開、運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、およびデジタルメディア & サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証スタンダード市場 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【NextPublishing】

NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス : NextPublishing 推進室

E-mail: np-info@impress.co.jp